

Vignai da Duline ヴィニヤイ・ダ・ドゥリネ			
	○Friuli Venezia Giulia - Friulano フリウーリ・ヴェネツィア・ジュリア フリウラーノ		備考 複雑さとヴォリュームのある味わいが特徴なドゥリネのワインだが、彼らのワインの中では、みずみずしさが特徴的な白ワイン。
	畑	品種：トカイ・フリウラーノ100% 植樹：1920年、1936年 位置：平地、標高50m 土壌：砂利、石灰を含む赤い粘土 畑名：ラ・ドゥリネ	
	○IGT delle Venezie - Morus Alba デッレ・ヴェネツィエ モールス・アルバ		備考 北部イタリアでは多くのフランス系品種がフィロキセラ以前には伝わっていたとされる。白ワインにおけるロレンツォ私的探究を表現したワイン。二つのアロマティック品種をアソンプラージュした、香り高いキュヴェ。フリウリらしいアソンプラージュといえる。ラ・ドゥリネとロンコ・ピトッティ2つの土壌のブレンド。
	畑	品種：マルヴァジアア主体、ソーヴィニオン・ブラン 植樹：1977年、1984年 位置：標高50m、150m 土壌：フリッシュ、石灰を含む赤い粘土 畑名：ラ・ドゥリネ、ロンコ・ピトッティ	
	○Friuli Colli Orientali - Chardonnay フリウーリ・コッリ・オリエンターリ シャルドネ		備考 北部イタリアでは多くのフランス系品種がフィロキセラ以前には伝わっていたとされる。しっかりと熟した果実、長い樽熟成の凝縮感と、みずみずしさのバランスが秀逸。
	畑	品種：シャルドネ100% 植樹：1984年 位置：南西向き、標高150m 土壌：フリッシュ、石灰質を含む。 畑名：ロンコ・ピトッティ	
	○IGT Venezia Giulia - Malvasia Istriana - Chioma Integrale ヴェネツィア・ジュリア マルヴァジアア・イストリアーナ キオーマ・インテグラレ		備考 キオーマ・インテグラレとは、芽かきを先梢を切らずにおく、キャンビー・フリーのことを挿しており、ドゥリネでは全ての畑でこの手法を採用している。ロレンツォの伸びっぱなしの髪がエチケットにもなっていて、かわいらしい。
	畑	品種：マルヴァジアア100% 植樹：1970年代、2014年 位置：平地、標高50m 土壌：砂利、石灰を含む赤い粘土 畑名：ラ・ドゥリネ	
	●IGT Venezia Giulia - Schioppettino ヴェネツィア・ジュリア スキオッペッティノ		備考 土着品種のスキオッペッティノ。スパイスの香りとタンニンの強い品種で、優雅なスタイルを造り出すのは難しいとされるが、ロレンツォとフェデリカの二人はこのむずかしい品種に対して特に愛着を感じる。品種の個性を出しつつも、ミネラルと酸が味わいをまとめている。
	畑	品種：スキオッペッティノ100% 植樹：1977年、2005年 位置：平地、標高50m 土壌：砂利、石灰を含む赤い粘土 畑名：ラ・ドゥリネ	
	●Colli Orientali del Friuli - Pinot Nero コッリ・オリエンターリ・デル・フリウーリ ピノ・ネーロ		備考 北部イタリアでは多くのフランス系品種がフィロキセラ以前には伝わっていたとされる。他のどの地方の、ピノ・ネーロとも違う、要素の詰まった味わい。ビン詰め後にしっかりと休ませてからリリース。
	畑	品種：ピノ・ネーロ100% 植樹：1978～1990年 位置：南西向き、標高150m 土壌：フリッシュ、石灰質を含む。 畑名：ロンコ・ピトッティ	
	●Colli Orientali del Friuli - il Merlot コッリ・オリエンターリ・デル・フリウーリ イル・メルロー		備考 北部イタリアでは多くのフランス系品種がフィロキセラ以前には伝わっていたとされる。長期の熟成をかけて、マグナムのみで瓶詰め。ビン詰め後にしっかりと休ませてからリリース。
	畑	品種：メルロー100% 植樹：1984年、1999年 位置：南西向き、標高150m 土壌：フリッシュ、石灰質を含む。 畑名：ロンコ・ピトッティ	
	○IGT delle Venezie - La Malvasia デッレ・ヴェネツィエ ラ・マルヴァテア		備考 ロレンツォとフェデリカ二人の、第2子テアの誕生を記念して、2009年に造られた甘口ワイン。1606年に出版された本に書いてあった、醸造法から着想を得て、造られた。
	畑	品種：マルヴァジアア100% 植樹：1970年代 位置：平地、標高50m 土壌：砂利、石灰を含む赤い粘土 畑名：ラ・ドゥリネ	